

# 游泳と水上安全に関する研究

—自然の水泳場における游泳調査からの考察—

長谷川勝俊

聖隷クリストファー大学看護学部

## A Study on YUUEI (Swimming and Playing in the Water) and Water Safety

Katsutoshi HASEGAWA

Department of Nursing, Seirei Christopher College

### 抄 録

自然の水泳場における青少年・少女への游泳指導、水上安全教育、溺水事故防止指導と、小学校学習指導要領によるところの体験的学習の方法を見出すことを目的に、自然の水泳場における青少年・少女の水泳、水遊び状況を調査し考察した。その結果、プールでの水泳指導を基本に体験的学習として、自然の水泳場での游泳指導へと展開し、「遊」の「およぐ、うかぶ、あそぶ」と、「泳」の「もぐる」による指導を、安全水泳の原則である「一に監督、二に指導」による指導と体験的学習によって行うことが有効的な方法と考えられる。

キーワード：日本泳法、野外教育、安全教育、大分県<sup>ウスキヤマウチリユウ</sup>白杵山内流、沖  
<sup>ハテルマジマ</sup>縄<sup>グジョウハチマンチヨウシダガワ</sup>波照間島、郡上八幡町吉田川

## 1. はじめに

筆者は、1992年の聖隷クリストファー看護大学<sup>注1)</sup>開学時から、海洋実習<sup>1)</sup>(図-1、2、3、4)を指導してきた。この実習時、顔を水面上に出して泳ぐ平泳ぎ<sup>2,3)</sup>の練習において、毎年、実習生30名から50名の中より数名の学生が、泳ぎ始めて数mの距離でパニック状態になり、助けを求める事例が発生した。彼女らはプール実習においては、25m以上泳げたのであるが、海では泳げなくなった。

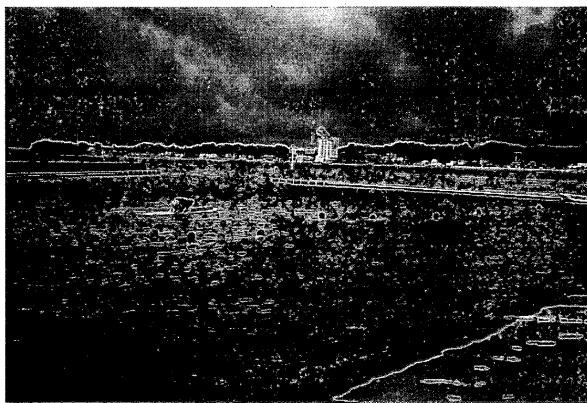


図-1 海洋実習〔游泳練習〕

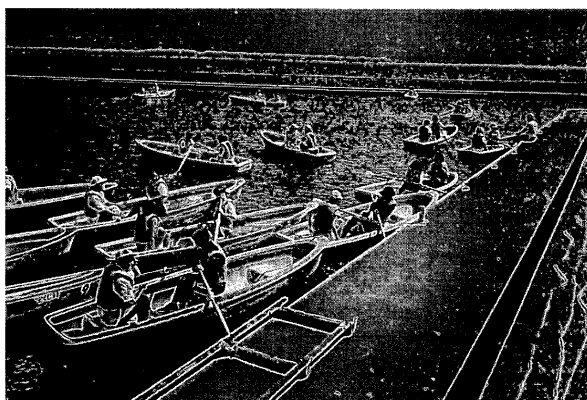


図-2 海洋実習〔ボート漕法〕

従来、泳ぐ事は、自然環境下での練習により水泳技術を習得し、自然条件を学習してきたはずである。しかし、前述の結果から、その人の生活していた水泳学習環境、水遊び体験などに

起因して、パニック状態に陥ったのではないかと考えられた。



図-3 海洋実習〔ライフベスト体験〕



図-4 海洋実習〔ボート転覆時の事故防止〕

そこで、筆者は、人間の水泳、水遊びに、生活環境がどのような影響を与え、またどのような溺水事故体験をしているかを主題として、青少年・少女の水泳学習環境、水遊び環境、溺水体験時の状況を調査し、報告<sup>4,5,6,7,8,9)</sup>してきた。

報告の概要は、

- I. 近年の水泳、水遊びにおいては、学校体育、社会体育による影響、指導の効果が重要な役割を担っている。
- II. 水泳技術習得は、学生の段階でほぼ全員が、プールで、小学校の先生か専門の水泳指導者から水泳指導プログラムにより習得している。

Ⅲ. 習得泳法は、水深、水温など、人工的に管理されているプールでの水泳、水遊びなどに適すると考える競泳泳法が主体であり、自然環境下において流動変化する自然水、変化に富む地形など自然の水泳場において必要とされる游泳<sup>10)</sup> 技術の不備や不足、時間遠泳<sup>11)</sup>、距離泳などの体験不足などがあり、游泳技術の指導や自然の水泳場などでの体験学習が必要である。

Ⅳ. 水泳、水遊びを楽しむ、好きな水泳場は、プールが身近な水泳環境であるが、海、河川も生活環境と関連した、身近な水泳環境である。

Ⅴ. 泳げるようになった時期と溺れた体験時の年齢とが同時期である。

Ⅵ. 水泳技術習得場所や溺水体験場所などにおいては、生活環境や自然環境が関連している。

以上、現代の青少年・少女への游泳指導の必要性と自然の水泳場における体験学習の必要性を報告した。

さらに、警察白書「水難による死者・行方不明者の発生場所別構成比（平成14年）」<sup>12)</sup>によれば、溺水事故発生場所の80.2%が自然環境下と報告されている。この報告からも自然の水泳場において必要とされる游泳技術の指導、体験学習が重要と考えられる。

そこで今回、自然の水泳場における青少年・少女への游泳指導、水上安全教育、溺水事故防止指導への基礎資料作成と、小学校学習指導要領「第1章、第3、総合的な学習の時間…」<sup>13)</sup>によるところの体験的学習への関連付けの可能性や方法を見出すことを目的に、自然の水泳場における、青少年・少女の水泳、水遊び状況を調査し考察した。その結果を報告<sup>注2)</sup>する。

## 2. 調査の概要

調査は、2002年7月、8月。海、河川の自然の水泳場における、青少年・少女の水泳、水遊びの参与観察と、ビデオ撮影による記録、さらにその関係者、現地住民からの面接調査から、泳法、水遊び、その他について考察した。

調査地は、前回報告<sup>7,8,9)</sup>に用いた調査結果より水泳技術習得環境の、泳げるようになった時の場所（図-5）をさらに集計し、全国結果よりも、自然の水泳場との関わりや影響の特徴 [ $\chi^2 = 319.15$ ,  $P < .001$ ] がみられ、調査の了承、協力の得られた2地域、

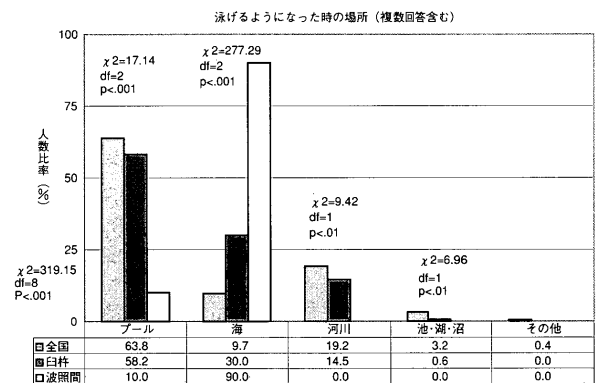


図-5 泳げるようになった時の場所

①180年以上の伝統ある、大分県白杵山内流游泳所における、海での游泳活動（図-6）。

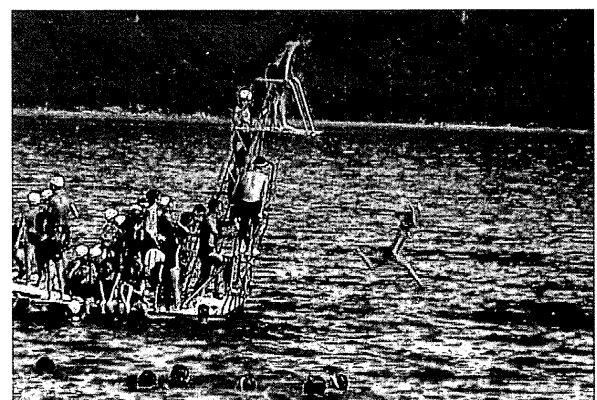


図-6 白杵山内流游泳所における游泳活動

②水泳、水遊び環境が海中心である沖縄県波照間島波照間中学生の水泳活動（図-7）。

とさらに、

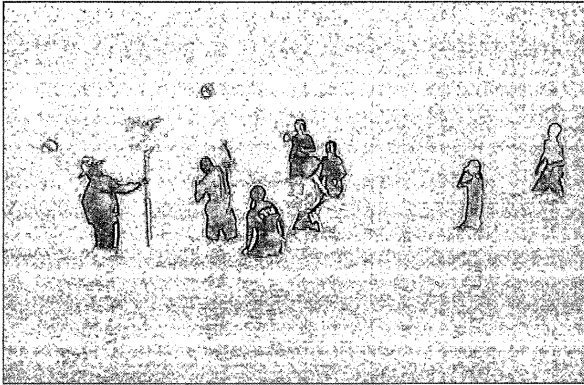


図-7 波照間島の水泳活動

③水遊び、水泳環境に河川を多用していると考えられる岐阜県郡上八幡町吉田川における青少年・少女たちの活動状況（図-8）。

の1地域を調査対象とした。

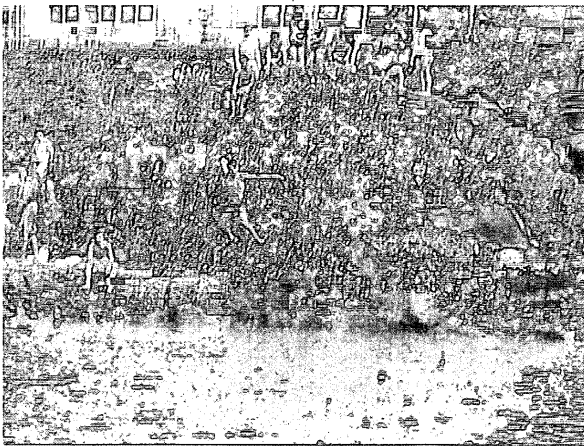


図-8 郡上八幡町吉田川における水泳、水遊び

### 3. 結果

#### 3.1. 大分県臼杵山内流游泳所における游泳指導

指導母体は、臼杵市臼杵山内流游泳所設置条例<sup>14)</sup>による社会体育団体である。主催臼杵市教育委員会、後援団体臼杵市PTA連合会。所長は

教育長、副所長は生涯学習課長と現場教師が勤める。

指導対象は、小学2年生以上の生徒（図-9）たちであり、例年100名以上が入所している。

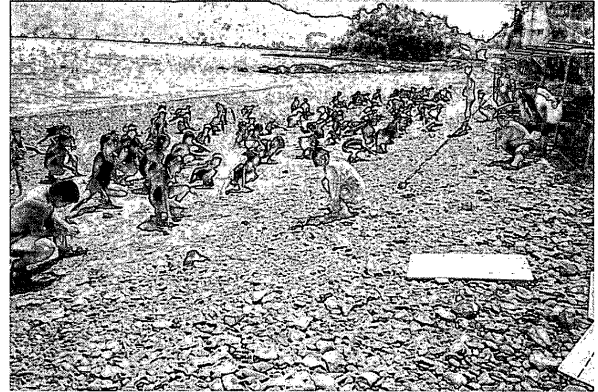


図-9 臼杵山内流游泳所生徒

指導期間は、夏季20日間。授業時間は、13時30分から15時20分の約2時間。平成14年度は、7月21日から8月11日であった。

指導場所（図-10）は、海〔臼杵湾中津浦鯉来<sup>ケイレイ</sup>の浜<sup>ハマ</sup>〕であり、水泳場の環境は、風波、潮流、潮の干満〔水位の変化〕、筏、跳び込み台付筏、監視船などである。



図-10 臼杵湾中津浦鯉来<sup>ケイレイ</sup>の浜<sup>ハマ</sup>

指導組織は、年長者から初心者へ、游泳術〔技〕、学科〔知識〕等を伝授継承（図-11）されている。



図-11 教師による座水線の試験

指導編制は、尋常科の丙組、乙組、甲組と、尋常科試験合格者による高等科、さらに高等科試験合格者の教師である。

指導における班の識別（図-12）として、生徒の男子は白の水泳帽子と黒線、女子は白鉢巻と黒線、さらに丙組生徒は、指導補助用に腹帯を着用し、指導者は、黒帽子に白線で識別される。



図-12 指導における班の識別

指導内容は、江戸時代より今日まで、180年以上も受け継がれている、大分県無形文化財指定の臼杵山内流<sup>14,15,16,17</sup>。伝統ある日本泳法十二流派の一流派である。泳法の特徴は、潜水・潜行泳法以外は、水面上に顔を出し周囲の状況、方向等を確認して泳ぐ、海での游泳術「顔出し泳法」<sup>注3</sup>（図-13）であり、さらに泳力に応

じ、竹竿（図-14）、旗、花傘などの物を持つ泳法（図-15）の他、弓術、砲術、水書、衣服脱着泳〔浴衣、着物などの着衣泳〕などの応用泳法である。

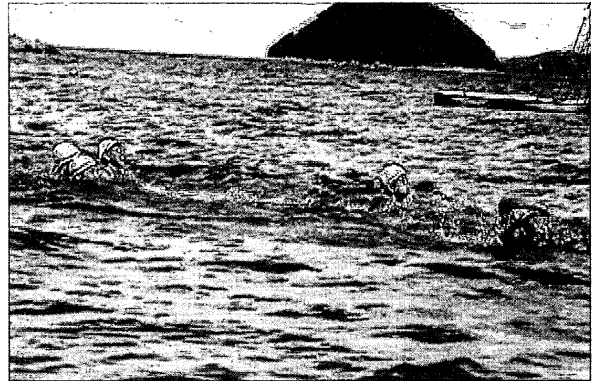


図-13 顔出し泳法<sup>注3</sup>〔扇・蛙平泳ぎ、拔手泳〕

安全管理対策として、指導経験豊富な指導者による監視船、監視塔、監視所からの監視・管理体制（図-16）と、各班指導者による監視・救助体制（図-14,17）がとられている。

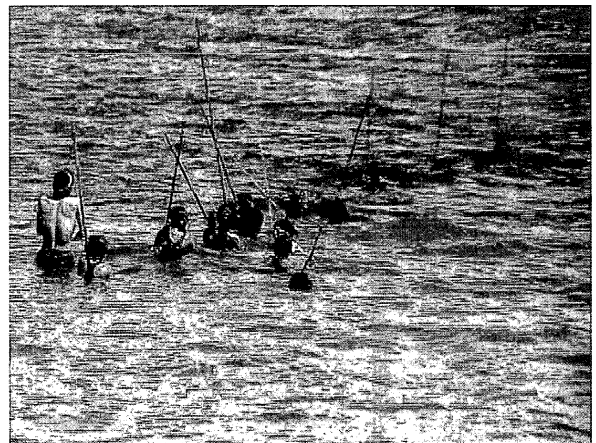


図-14 竿持ち泳ぎ

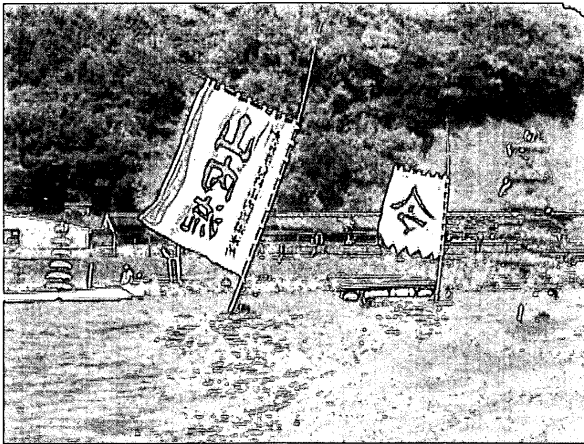


図-15 山内流旗、令旗、五階花傘

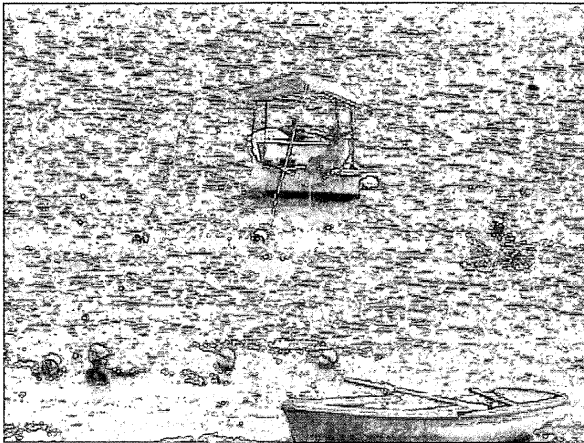


図-16 指導・監視船

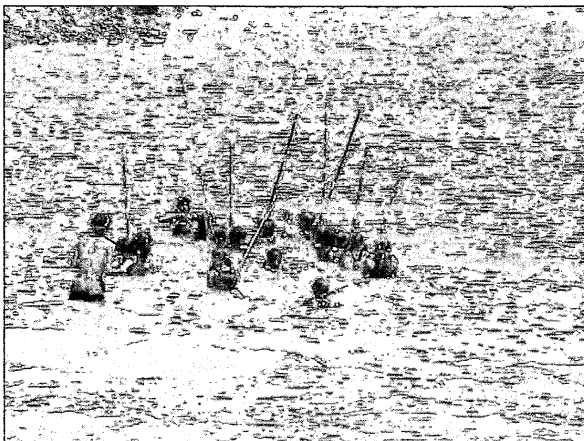


図-17 複数教師による指導監視体制

入所経費は、白杵山内流游泳所授業料徴収条例により、2100円と障害保険料450円。さらにバス通学生は、定期券代約3000円から6000円であ

る。

### 3.2. 沖縄県波照間島における水泳活動

指導母体は、学校教育活動、学校体育である。

水泳場は、海〔ニシノ浜〕(図-18)で、プールは未設置である。水泳場の環境は、波、潮流、潮の干満〔水位の変化〕、珊瑚礁、砂浜などである。

子供たちの水泳学習は、学校教育や家族、子供たちによる水泳、水遊び(図-7、19,20)である。

水泳、水遊びの特徴は、水中自然観察、ボールゲーム他である。



図-18 波照間島ニシノ浜

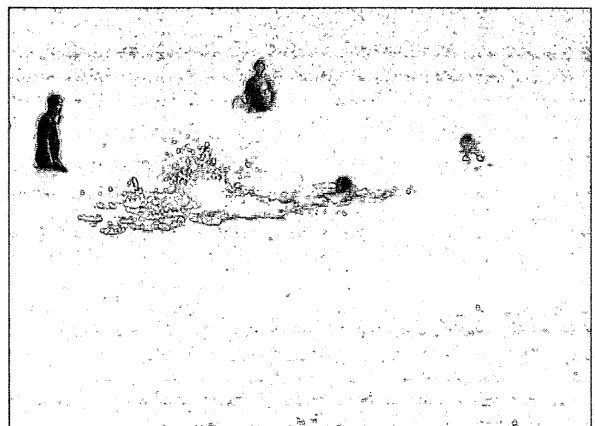


図-19 波照間中学校水泳授業1



図-20 波照間中学校水泳授業2

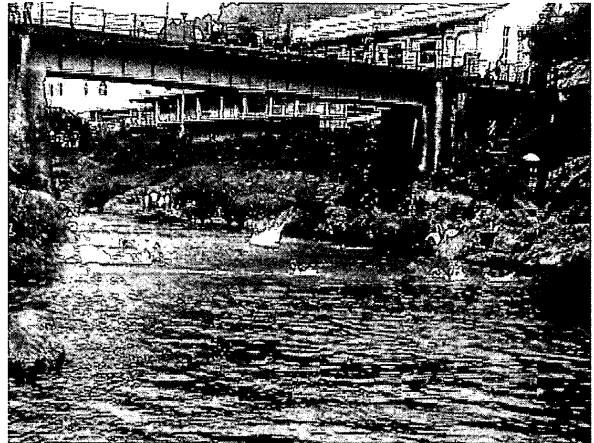


図-21 郡上八幡町吉田川

その他の特徴としては、珊瑚礁など水底の岩からの怪我予防対策としての靴や、紫外線対策への衣服〔Tシャツ〕着用（図-7,19,20）等である。

安全管理対策として、学校教育、家族、地域住民らによる水泳、水遊びへの安全教育とその指導や、監視活動などである。

### 3.3. 岐阜県郡上八幡町吉田川における水泳、水遊び活動

水泳学習は、学校教育と家族、子供たちによる水泳、水遊びであり、社会体育の影響は、不明である。

水泳場は、川と学校のプールであり、吉田川の環境は、水流、水深、橋〔高さ約12m〕、（図-21）、岩場などである。

水泳、水遊びの特徴は、川下り、横断泳、跳び込み、シュノーケリング、水中自然観察（図-22）などである。

安全管理体制（図-23）として、近隣住民による監視活動や、学校教育、家族、地域住民による安全教育とその指導であり、さらに、水泳、水遊びを行っている青少年・少女たちによる自主的・主体的な監視・管理活動である。

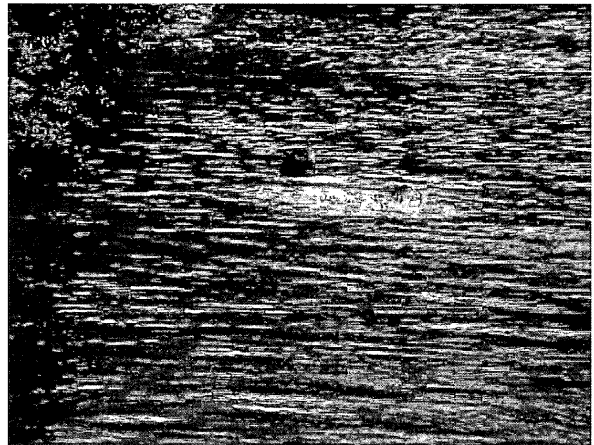


図-22 水中自然観察

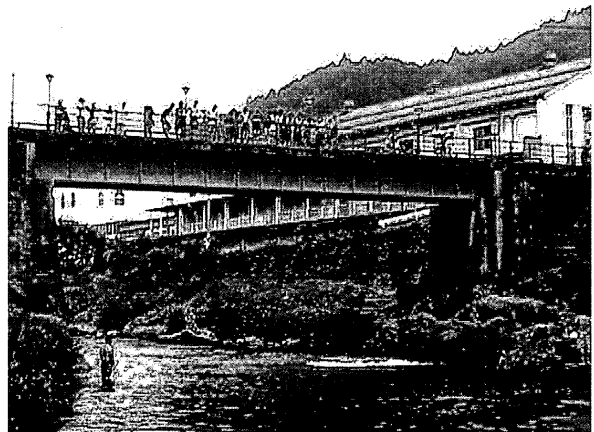


図-23 安全管理

## 4. 考察

### 4.1. 泳法、水遊びの内容等に関して

顔出し泳法による、周囲の状況、方向等を確認して泳ぐ泳法が主体である。クロール泳法(図-24)の場合は、進行方向が定まらず、方向違いへ行く安全上の問題が知見され、自然の水泳場とプールにおける水泳の相違、環境への対応方法などの教育や泳法指導の必要性が示唆された。



図-24 海でのクロール泳法

水深、地形を利用したの飛び・飛び込み(図-7,8,25,26)や潜水・潜行、水深への対応からの立ち泳ぎなど、水面上、水面、水面下を立体的に利用しての水泳、水遊びの特徴が知見され、自然の水泳場の特徴に適し、合致した、水泳、水遊びの技術指導や安全教育の必要性が示唆された。

シュノーケリングによる水中自然観察や、浮き具などを利用しての川下りやボールゲーム(図-7,19,20)、水泳指導補助用の腹帯(図-27)など、物を使用しての水泳、水遊びの特徴も知見され、自然の水泳場の特徴に適し、合致した物を使用しての、水泳、水遊びの方法や技術指導の必要性が示唆された。

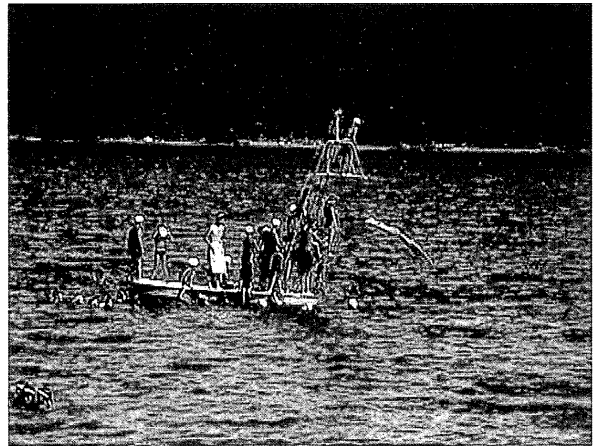


図-25 臼杵山内流逆飛び込み[摺込]

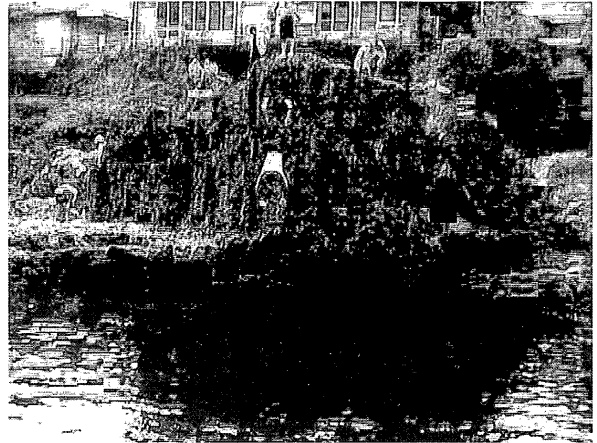


図-26 郡上八幡吉田川飛び込み

舟、筏、跳び・飛び込み台、橋、岩場などの付帯施設、地形などを利用しての水泳、水遊び(図-28)の特徴が知見され、その環境において必要とされる、安全な水泳、水遊びの技術指導や、施設や環境などを安全に利用するための方法指導や安全教育の必要性が示唆された。

### 4.2. 水上安全教育、溺水事故防止指導などの安全管理に関して

水上安全教育、溺水事故防止指導に関しては、学校教育、社会体育、家族、地域住民らによる安全教育や監視活動、救助体制など、その地域の環境、自然の水泳場の特徴に適し、合致した安全教育、安全管理対策がなされているこ





図-27 白杵山内流丙組生徒の腹帯

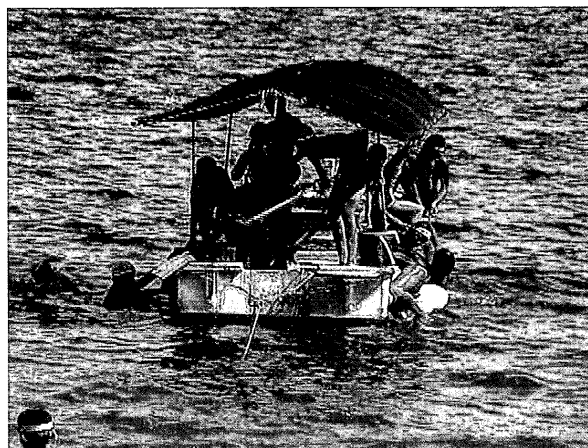


図-28 白杵山内流丙組生徒の舟遊び

とが知見された。また、その地域住民に対する事例調査では、「事故は、外来者、他地域からの来訪者、遊び客による例が多い。」<sup>注4)</sup>との情報より、自然の水泳場における、溺水事故防止においては、学校教育、社会体育、家族、地域住民などが一体となった、安全教育、安全管理体制が重要と示唆された。また、これらの事例調査より、その環境、自然の水泳場の危険因子などの情報を持たない人たちへの事故防止対策や、情報提供などの対応方法の課題や必要性も示唆された。

集団指導下での安全管理対策として、泳力による区分、帽子、白鉢巻などによる識別（図-29）など、その地域、組織において継承、伝承

されている安全管理方法などの対応が知見され、集団組織による自然の水泳場での水泳、水遊びにおいては、環境と活動目的に適し、合致した組織、方法などが、溺水事故防止の方法と示唆された。



図-29 集団指導での安全管理(白帽子・鉢巻)

集団内における仲間同士、相互による監視活動、事故防止意識も知見された。これは、それらの地域の環境、自然の水泳場の特徴に適し、合致した安全対策、組織と推察され、学校教育、社会体育、家族、地域住民らによる一体となった、安全教育、安全管理対策の影響、効果と示唆された。

#### 4.3. 健康管理に関しては

健康管理、怪我の予防として、太陽光、紫外線などによる日射病、日焼け予防対策としての帽子（図-27）や衣服〔Tシャツ〕の着用（図-7,19,20）水底の珊瑚、岩などによる怪我防止のための靴の着用などが知見され、これらも、その地域、組織において継承、伝承されている方法や習慣であり、これらも健康管理、怪我予防対策に有効な方法と示唆された。

## まとめ

現代の、青少年・少女への游泳指導、水上安全教育、溺水事故防止指導においては、プールでの水泳指導を基本として、さらに体験的学習として、自然の水泳場での游泳指導へと展開し、游泳<sup>8)</sup>の意である、「游」の「およぐ、うかぶ、あそぶ」と、「泳」の「もぐる」の意による指導を自然の水泳場における安全水泳の原則<sup>18)</sup>である「一に監督、二に指導」により、安全管理、事故防止としての監督と、自然環境、自然の水泳場における游泳指導と水上安全教育、溺水事故防止指導が有効的な体験的学習の方法と考える。

## 謝辞

本報告にあたり、伝統と長年の実績により伝授、継承されている貴重な資料や情報を提供してくださり、さらに映像記録、画像公開など協力、了承してくださった、臼杵山内流可兒雄二郎顧問、加納豊副所長、土谷桂山師範他、游泳所、クラブ関係者の方々、そして臼杵市教育委員会岡部観榮教育長〔所長〕、諸先生方へ、この誌面を借り、感謝の気持ちを述べさせていただきます。

また本調査、映像記録、画像公開などを了承、協力してくださった、波照間中学校の大城敏彦校長先生、元田功教頭先生、教職員の皆さん、そして、私に貴重な水泳体験、水泳文化を教え、調査に協力してくれた生徒さんたちへ、この誌面を借り、感謝の気持ちを述べさせていただきます。そして波照間島での調査を援助、紹介してくれた、故与儀達明君〔物故2003. 4. 16〕へ、感謝の気持ちを述べさせていただきます。

その他、自然の水泳場での子どもたちの水泳、水遊びに関する、地域の状況など、貴重な情報を提供してくださった方々へ、感謝の気持ちを述べさせていただきます。

注1) 聖隷クリストファー看護大学は、2002年4月より聖隷クリストファー大学へと大学名を変更。

注2) 本報告は、第54回日本体育学会(2003.9.26、熊本大学)において報告した内容に加筆し、また第6回日本野外教育学会(2003.6.22、中央大学多摩キャンパス)において報告した内容を一部引用し、まとめて報告するものである。

注3) 「顔出し泳法」の表記に関しては、日本水泳連盟：新水泳指導教本、水泳指導教本に記述されている「顔を水面上に出したまま泳ぐ一般的泳法」より、筆者が称した語句である。

注4) 現地住民への面接調査結果からの記述である。

注5) 臼杵山内流游泳所での游泳活動、波照間中学校での水泳授業における映像は、事前の了承の元で撮影された画像であり、関係者の了承を得ての掲載である。

## 参考引用文献、資料

- 1) 長谷川勝俊(2000): 大学体育における野外・海洋実習の実践報告—履修意識調査と体験評価より—。野外教育研究, 4(1), 65-70.
- 2) (財)日本水泳連盟編(1995): 新水泳指導教本。大修館書店, 49.
- 3) (財)日本水泳連盟編(1990): 水泳指導教本。大修館書店, 52.

- 4) 長谷川勝俊 (2000)：游泳と水上安全に関する研究－静岡県を事例として－. 野外教育研究, 3(2), 23-28.
- 5) 長谷川勝俊 (2001)：青少年・少女への游泳と水上安全指導に関する研究－静岡県内の異なる生活環境地域間の比較より－. 日本スポーツ教育学会第20回記念国際大会論集, 239-244.
- 6) 長谷川勝俊 (2002)：游泳と水上安全に関する研究Ⅱ－静岡県内の世代間の比較より－. 野外教育研究, 5(2), 35-43.
- 7) 長谷川勝俊 (2002)：游泳と水上安全に関する研究－游泳技術－水遊びに関する調査報告から－. 第5回野外教育学会, 58-59.
- 8) 長谷川勝俊 (2002)：游泳と水上安全に関する研究－泳ぐ技術の習得環境と溺水体験に関する調査報告から－. 日本体育学会第53回大会, 499.
- 9) 長谷川勝俊 (2003)：游泳と水上安全に関する研究Ⅲ－游泳技術、水遊び、溺水体験に関する調査より－. 野外教育研究, 6(2), 35-44.
- 10) 今村嘉雄・宮畑虎彦 (1979)：新修体育大辞典. 1502r, 不昧堂, 東京.
- 11) 佐野清次郎 (1968)：遠泳－指導法と海の知識－. 15, 不昧堂, 東京.
- 12) 警察庁 (2002)：警察白書 (平成14年版). 282, 大蔵省印刷局, 東京.
- 13) 文部省 (2001)：小学校学習指導要領. 1-5, 財務省印刷局, 東京.
- 14) 山内流游泳クラブ (1985)：山内流. 山内流游泳クラブ, 臼杵市.
- 15) 白山源三郎編著 (1975)：図説日本泳法－12流派の秘法－. 158-164, 日貿出版社, 東京.
- 16) (財)日本水泳連盟日本泳法委員会 (2001)：日本泳法12流派総覧上巻. 99-134, 騒人社, 東京.
- 17) 山内流游泳クラブ (1985)：山内流180周年記念誌. 山内流游泳クラブ, 臼杵市.
- 18) (財)日本水泳連盟 (1997)：安全水泳. 13, 大修館, 東京.